



**温室効果ガス・水循環観測技術衛星(GOSAT-GW)搭載  
高性能マイクロ波放射計3(AMSR3)  
標準プロダクト検証結果  
(高次地球物理量プロダクト)**

初版 2026年6月30日

宇宙航空研究開発機構  
第一宇宙技術部門  
地球観測研究センター



# 1. はじめに

- 本資料では、温室効果ガス・水循環観測技術衛星(GOSAT-GW)搭載の高性能マイクロ波放射計3(AMSR3)によって観測された輝度温度を元に作成される標準プロダクト(高次地球物理量プロダクト)のデータリリースに向けた検証結果を示す。
- 検証作業にあたっては、AMSR シリーズの検証作業実績を活用して実施する。検証データとして、各国の気象・海洋現業機関等が取得している現業データ、ならびに様々な科学計画で取得されているデータを最大限に有効活用する。AMSR シリーズの実績から、各地球物理量の課題や検証項目を洗い出し、それらに焦点を当て、効率的に検証を実施する。
- なお、本評価はリリース前の輝度温度プロダクトを使用して評価しているため、リリースに際して適用した改善により評価結果に変更があった場合は順次資料を更新する予定である。
- また、各プロダクトのアルゴリズム詳細や制限事項等についてはAMSR3アルゴリズム記述書も合わせて参照いただきたい。

## 2. 標準プロダクト(高次)精度基準

- 高次地球物理量プロダクトリリース精度・標準精度

プロダクト名	領域	リリース精度	標準精度	詳細ページ
積算水蒸気量	海上	3.5 kg/m <sup>2</sup>	3.0 kg/m <sup>2</sup>	P.3-4
	陸上	6.5 kg/m <sup>2</sup>	3.5 kg/m <sup>2</sup>	
積算雲水量	全球洋上	0.10 kg/m <sup>2</sup>	0.05 kg/m <sup>2</sup>	P.5-6
降水量	全球	海上: 50 % 陸上: 120 %	海上: 50 % 陸上: 120 %	P.7-8
		海上: 130 % 陸上: 200 %	海上: 130 % 陸上: 200 %	P.9-13
海面水温	6 GHz	0.8 °C	0.5 °C	P.14-15
	10 GHz 多周波		0.6 °C	
海上風速	全球洋上	1.5 m/s	1.0 m/s	P.16-17
全天候海上風速	全球洋上	7 m/s	5 m/s	P.18-19
海水密接度	極域洋上	10%	10%	P.20-21
高解像度海水密接度	極域洋上	15%	15%	P.22-23
積雪深	全球陸上	20 cm	10 cm	P.24-25
土壤水分量	全球陸上	10%	5%	P.26-27
海水移動ベクトル	極域洋上	6 cm	6 cm	P.28-29

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (1) 積算水蒸気量

- 検証方法
  - ラジオゾンデおよびGPS受信機データから算出する積算水蒸気量を海上、陸上それぞれについてAMSR3による積算水蒸気量の推定値と比較し、15 km程度の水平分解能における瞬時値の二乗平均平方根誤差(RMSE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - ラジオゾンデとAMSR3の観測時刻差が1時間以内かつ観測地点から30km以内
  - GPSとAMSR3の観測時刻差が5分以内かつ観測地点から30km以内
  - マッチアップ条件を満たす有効なAMSR3積算水蒸気量が5点以上、かつ最大値と最小値の差が5 kg/m<sup>2</sup>より小さい事
- 検証期間
  - 2025年8月11日から2026年3月31日

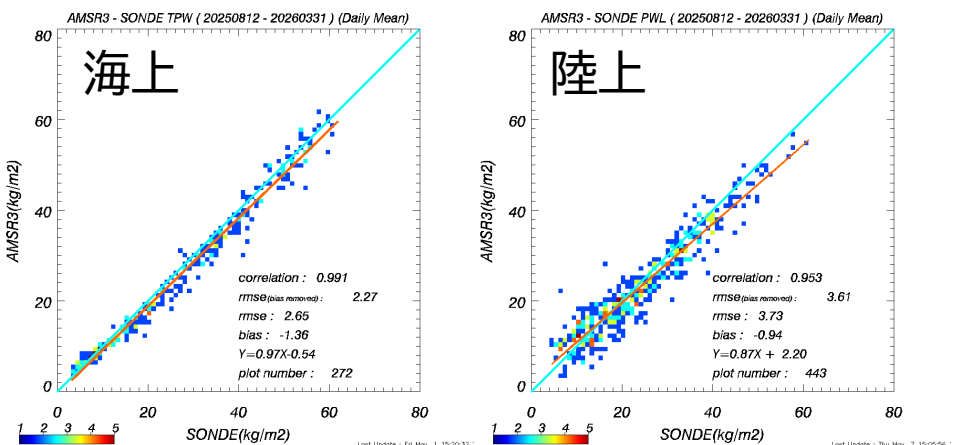


### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

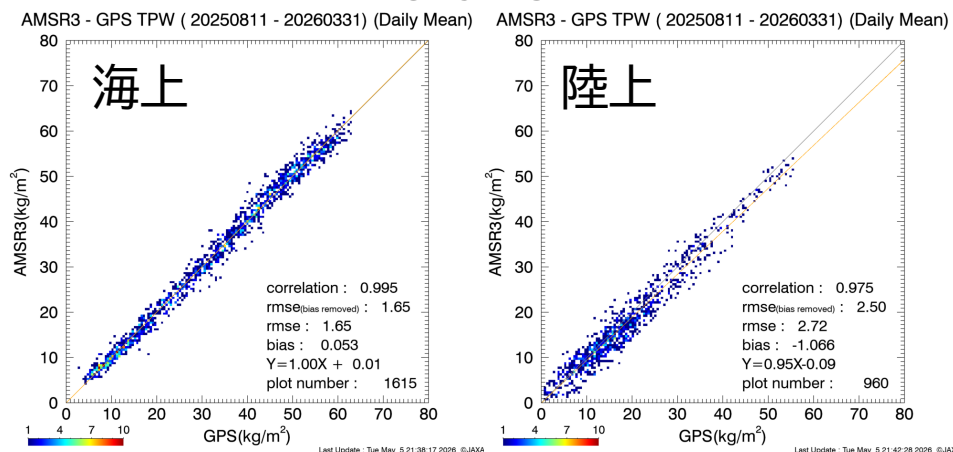
#### (1) 積算水蒸気量

- 検証結果

vsラジオゾンデ



vs GPS



リリース基準精度	検証結果	備考
海上:3.5 kg/m <sup>2</sup> 陸上:6.5 kg/m <sup>2</sup>	海上:vs ラジオゾンデ 2.65 kg/m <sup>2</sup> , vs GPS 1.65 kg/m <sup>2</sup> 陸上:vsラジオゾンデ 3.73 kg/m <sup>2</sup> , vs GPS 2.72 kg/m <sup>2</sup>	期間を延長し、継続的な検証を実施する

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

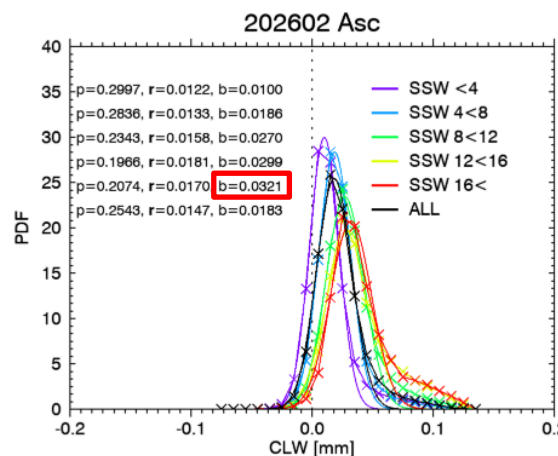
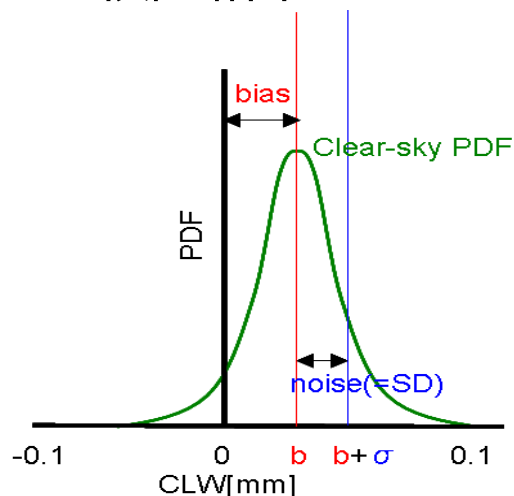
#### (2) 積算雲水量

- 検証方法
  - MODIS、VIIRS 等の同時観測の可視・赤外センサデータの晴天域情報(雲フラグ情報)を使って、AMSR3による雲水量観測データをヒストグラムで比較し、雲のない領域におけるAMSR3雲水量の0値からのばらつきを評価する。
- 検証データ・比較条件
  - 時刻差1時間のVIIRS雲フラグデータを用いて晴天域を抽出後、CLWの確率密度関数(PDF)から、バイアス・ノイズ(標準偏差)を月ごとに算出
  - 晴天域CLWバイアスとノイズの中で有効観測点が1000点以上あるときの最も大きなノイズ(worst std.)とバイアス(worst bias)を用いて、CLW accuracy(依存性を含めた総合的な精度)を算出
- 検証期間
  - 2025年9月1日から2026年3月31日

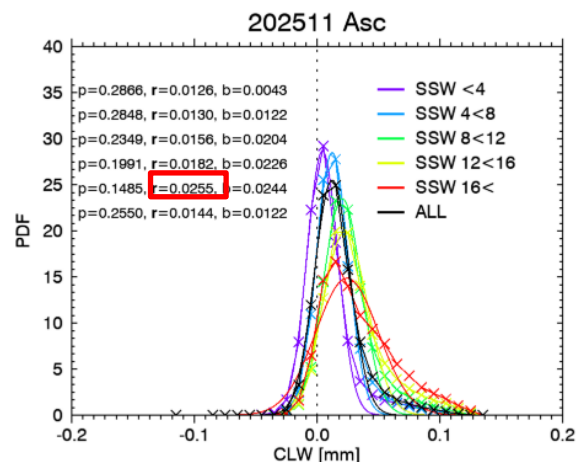
### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (2) 積算雲水量

- 検証結果



worst bias count:11963



worst std count:6352

リリース基準精度	検証結果	備考
0.1 kg/m <sup>2</sup>	worst std :0.0255 (SSW>16m/s Nov2025) worst bias :0.0321 (SSW>16m/s Feb2026) worst(std+bias) :0.058	標準精度(0.05kg/m <sup>2</sup> )を達成するためにアルゴリズムの精緻化検討を継続する .

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (3) 降水量(雨)

- 検証方法
  - GPM衛星搭載の二周波降水レーダDPRの降水量プロダクトと比較検証を実施する。0.5度格子相当の瞬時値で、DPR測定値に対する相対誤差を求め、その値を用いて検証する。
- 検証データ・比較条件
  - 観測時間差10分以内でマッチしたDPRとAMSR3の降雨判定された推定値を0.5度格子相当に平均して比較。
  - DPRとAMSR3降水のどちらかが0mm/hより大きい、かつ、 $0 \leq \text{DPR}$ ,  $\text{AMSR3} < 20.5$  (mm/h)に該当するマッチアップのみを使用
- 検証期間
  - 2025年9月1日から2026年2月28日

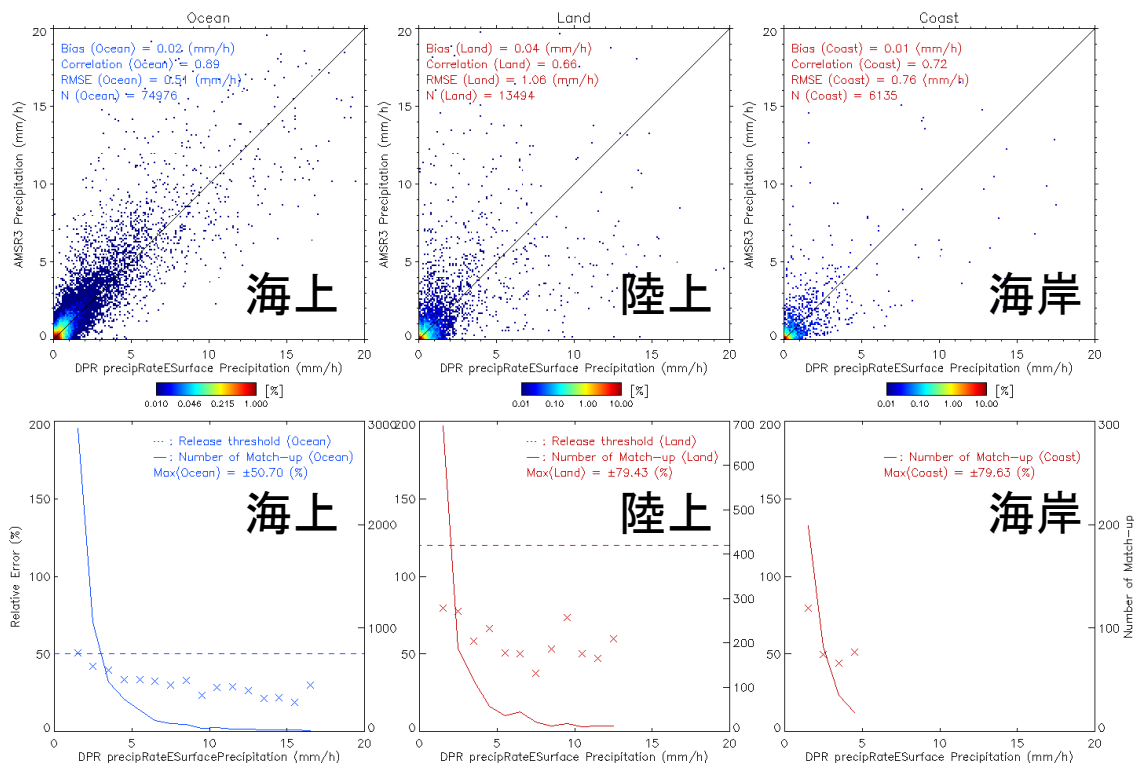


### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (3) 降水量(雨)

- 検証結果

AMSR3/PRC(v1)-DPR(07C)



リリース基準精度	検証結果	備考
0.5度格子相当の 対 GPM/DPR での相対誤差。 海 50% 陸 120%	海域:44.72% 陸域:72.45% (海岸:64.98%)	期間を延長し、継続的な検証を実施する

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

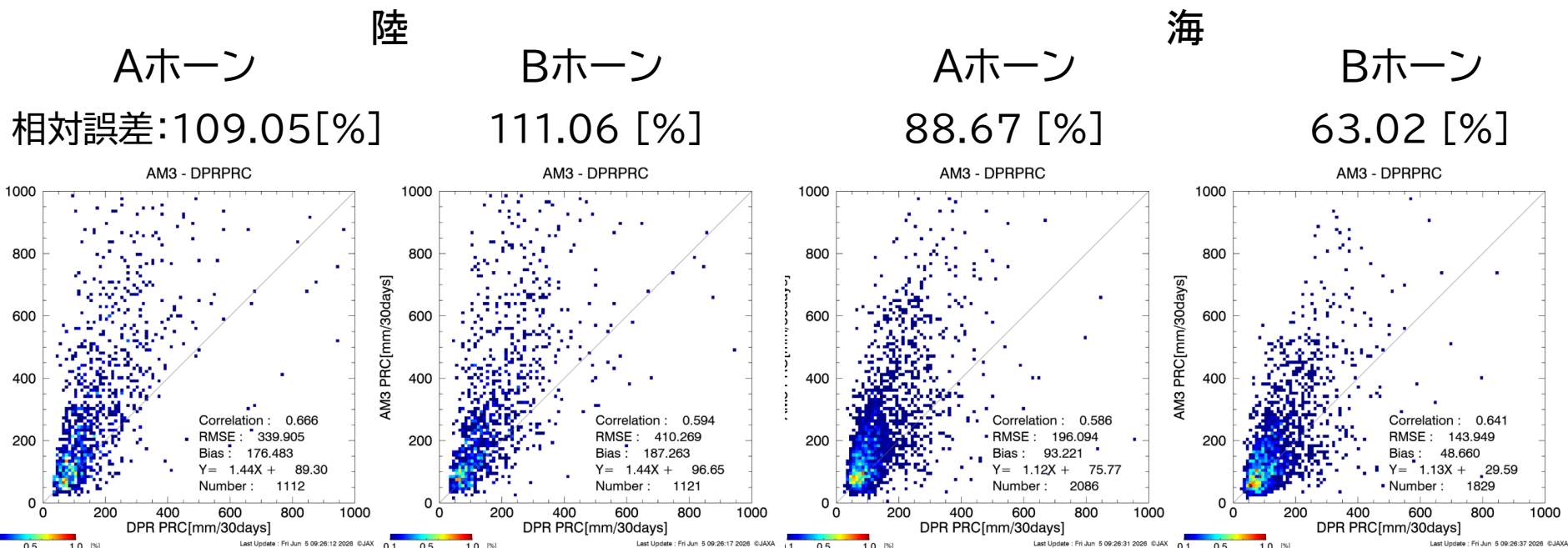
#### (3) 降水量(雪)

- 検証方法
  - GPM衛星搭載の二周波降水レーダDPRの降水量プロダクトと比較検証を実施する。0.5度格子での月積算降雪量のDPR測定値に対する相対誤差を求め、その値を用いて検証する。
- 検証データ・比較条件
  - 観測時間差10分以内でマッチしたDPRとAMSR3観測を使用
  - 0.5度格子内のAMSR3観測がすべて降雪判定の場合、その格子を降雪と判定する。
  - AMSR3とDPRのそれぞれの推定値に対して、各格子ごとの降雪量月積算値を算出し、1mm/month以上のデータを用いて比較
  - AホーンとBホーンでは入射角が異なり、AMSR-Eでは、ミッション途中でAホーンのみが故障した経緯もあるため、個別に精度評価・AB間の整合性評価を行う
- 検証期間
  - 2025年9月1日から2026年2月28日

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (3) 降水量(雪)

- 検証結果(降雪量月積算値)



リリース基準精度	検証結果	備考
0.5度格子相当の対 GPM/DPR での相対誤差。海 130%* 陸 200%* (*1mm/month以上、月積算で評価)	海域: 88.67%(Aホーン), 63.02%(Bホーン) 陸域: 109.05%(Aホーン), 111.06%(Bホーン)	弱い雪については、今後 EarthCARE/CPR降雪量との比較も実施する

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

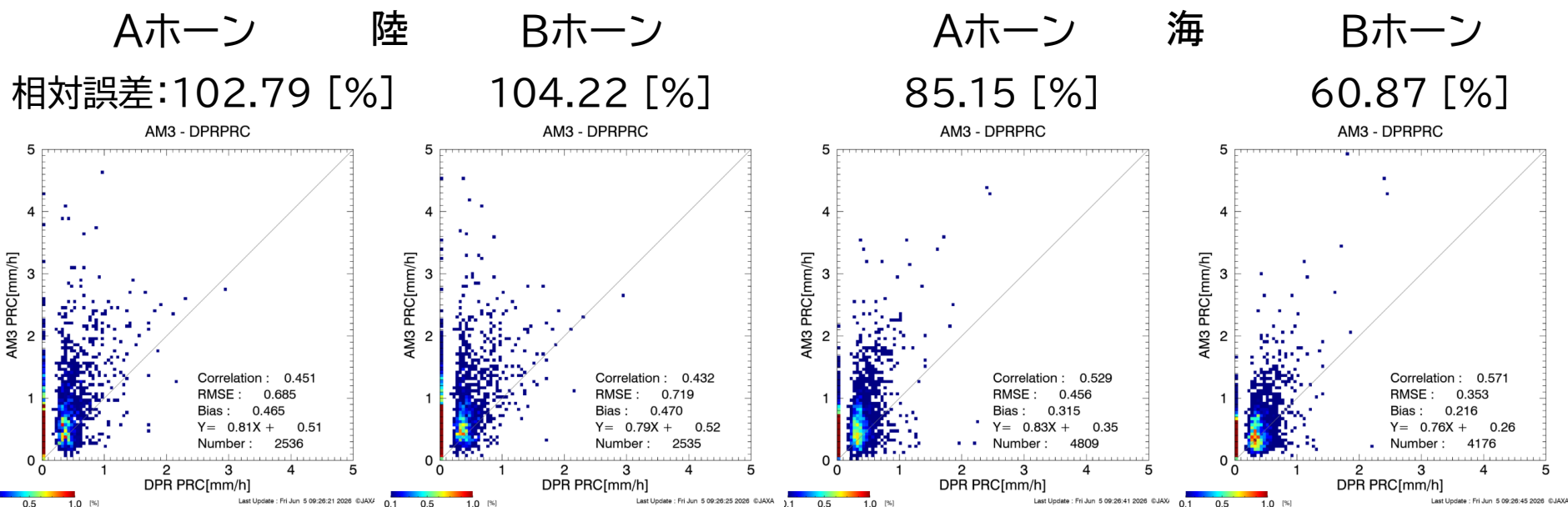
#### (3) 降水量(雪)

- 降雪量は新規プロダクトであるため、ミッション要求書で定義された月積算値に加えて、参考として瞬時値(各格子平均降雪量[mm/h])とそのヒストグラムの比較を行った。
- 検証期間やマッチアップ条件、降雪判定条件は、月積算の評価と同じ

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (3) 降水量(雪)

- AMSR3とDPRの降雪量の瞬時値(各0.5格子ごとの平均降雪量 [mm/h])の比較



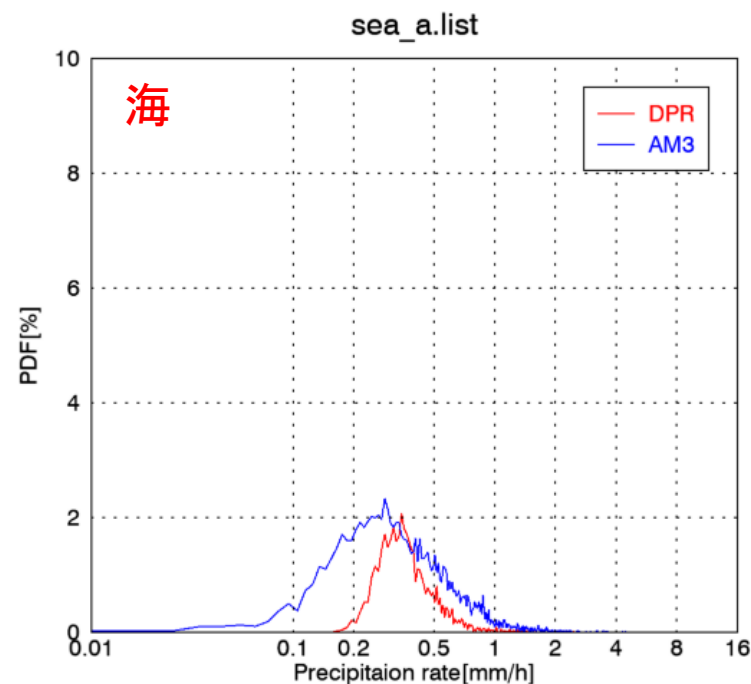
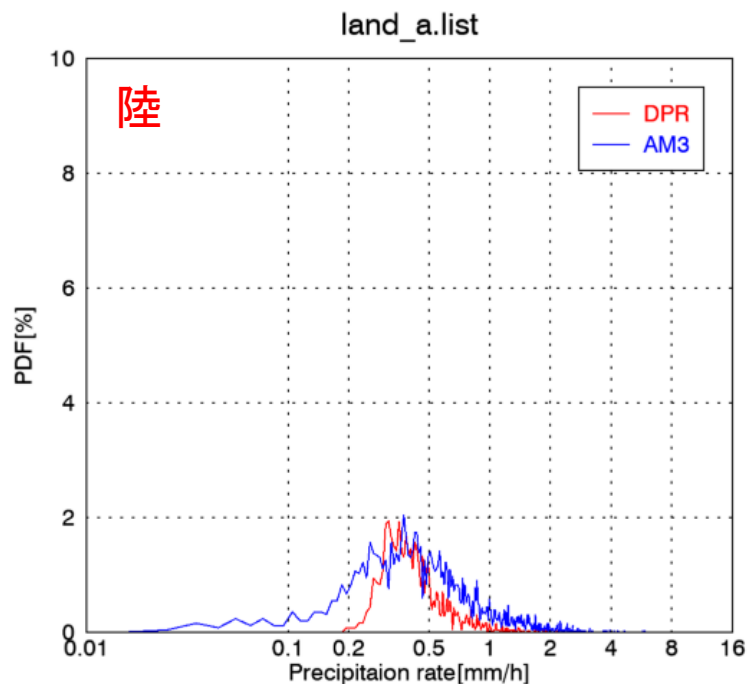
#### 検証結果

降雪量プロダクトについて、瞬時値についても0.5度格子相当の対 GPM/DPR での相対誤差の評価を実施した。瞬時値の精度も月積算値での精度と同等であることが示された。海上Aホーンの精度がBホーンに対して少し精度が悪い理由は、輝度温度の(AMSR3からGMI相当への)変換係数に起因すると考えており、現在対応を検討している。また、GSMaP側での評価により、想定よりもAMSR3の降雪域・降雪量が過大となる問題も確認されているが、原因は特定済(主にレジーム判定のため、次バージョンアップ時に修正予定である。

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (3) 降水量(雪)

- AMSR3とDPRの降雪量頻度分布の比較



#### 検証結果

AMSR3降雪量とGPM/DPR降雪量の頻度分布を比較した。AMSR3、DPRともに0.4mm/h付近でピークの位置も強度もおよそ一致しており、この強度においては同程度の降雪量を推定している。しかし、ピークより強い降雪量では、AMSR3降雪頻度が、DPRにくらべて過大であり、これは前項の月積算、瞬時値において過大推定となる原因とも関連すると考えられるため、今後さらなる評価を進める。ピークより弱い降雪量はDPRの感度が低く、DPR降雪量の頻度が急激に低くなる(AMSR3に比べてDPRの頻度総数が少ないのは0mm/hとなっており、対数軸上の図に表示できないため)。弱い降雪検証のため、EarthCARE/CPR観測を用いた降雪量比較・検証を進めている。

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (4) 海面水温(6GHz、10GHz、多周波)

- 検証方法
  - NOAAが提供する、品質管理を行ったGTS固定・漂流ブイの水温データ(iQuam)をAMSR3による海面水温の推定値と比較し、二乗平均平方根誤差(RMSE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - iQuamに対して、観測時刻差2時間以内、かつ、距離差30km以内のAMSR3観測点を検索し、最近傍点のデータを検証する。
  - 6GHz、多周波海面水温はAMSR3の品質フラグが0、10GHz海面水温は品質フラグ0に加え1(9°C未満)のデータを検証する。
- 検証期間
  - 2025年8月11日から2026年4月30日



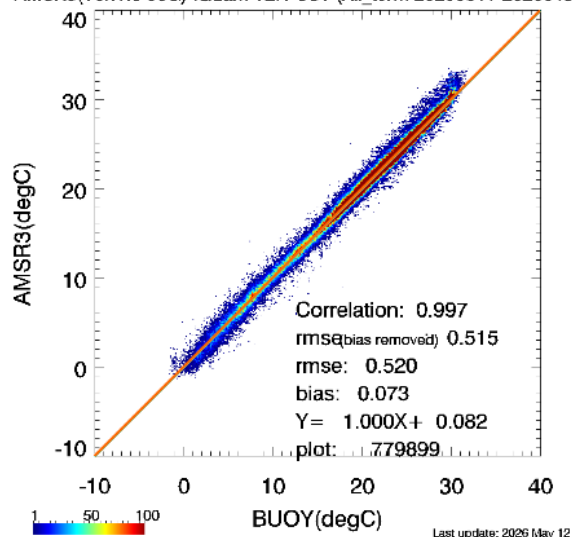
### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (4) 海面水温(6GHz、10GHz、多周波)

- 検証結果

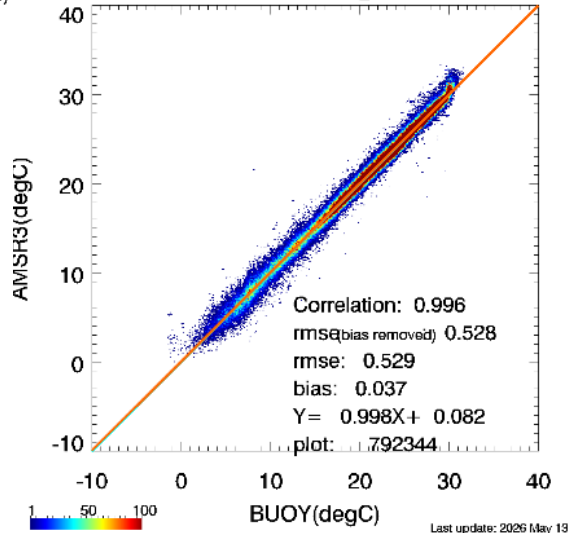
**6GHz**:アセンディング・ディセンディング

AMSR3(Ver.1.0 06G)-iQuam V2.1 SST (All\_term 20250811-20260430 MO)



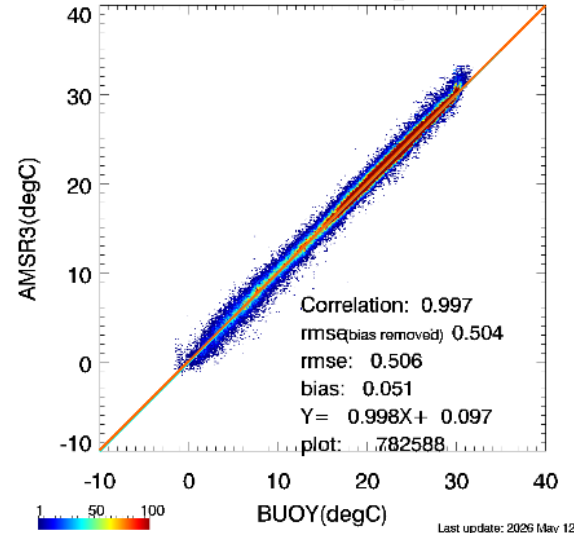
**10GHz**:アセンディング・ディセンディング

AMSR3(Ver.1.0 10G)-iQuam V2.1 SST (All\_term 20250811-20260430 MO)



**多周波**:アセンディング・ディセンディング

ISR3(Ver.1.0 Multi-band)-iQuam V2.1 SST (All\_term 20250811-20260430 MO)



リリース基準精度

検証結果

備考

対ブイの二乗平均平方根誤差(RMSE)  
0.8℃

SST**6GHz**: RMSE = 0.52 ℃  
SST**10GHz**: RMSE = 0.53 ℃  
SST**multi**: RMSE = 0.51 ℃

標準精度(6GHz: 0.5℃、10GHz&多周波:0.6℃)を達成するためにアルゴリズムの精緻化検討を継続する。

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (5) 海上風速

- 検証方法
  - 固定ブイで観測された海上風速をAMSR3による海上風速の推定値と比較し、二乗平均平方根誤差(RMSE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - 固定ブイデータに対して、観測時刻差2時間以内、かつ、距離差30 km以内のAMSR3観測点を10点検索し、10点の最大値と最小値の差が3m/s以下の場合(AMSR3海上風の等方性が担保される場合)を対象とする。
  - 上記条件を満足する場合に、ブイに対して最近傍点のAMSR3データを検証する。
- 検証期間
  - 2025年8月11日から2026年4月30日



### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

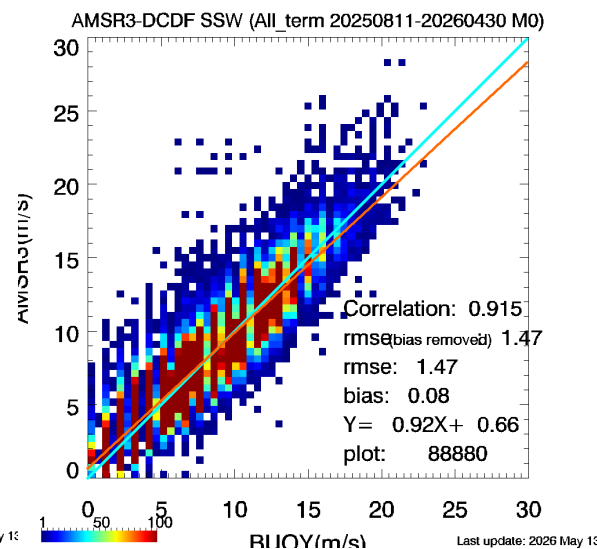
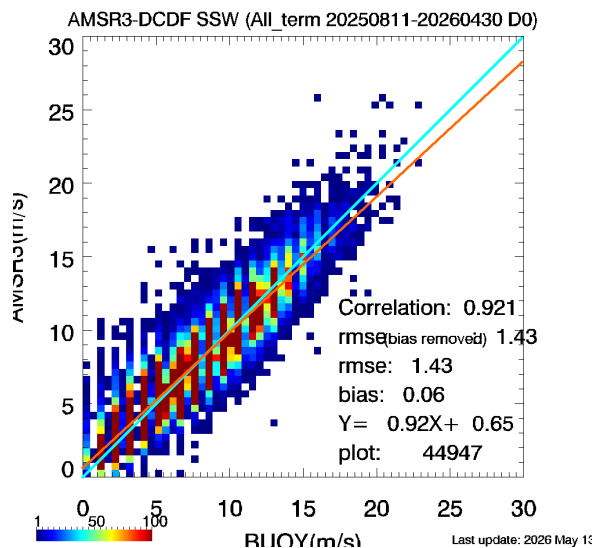
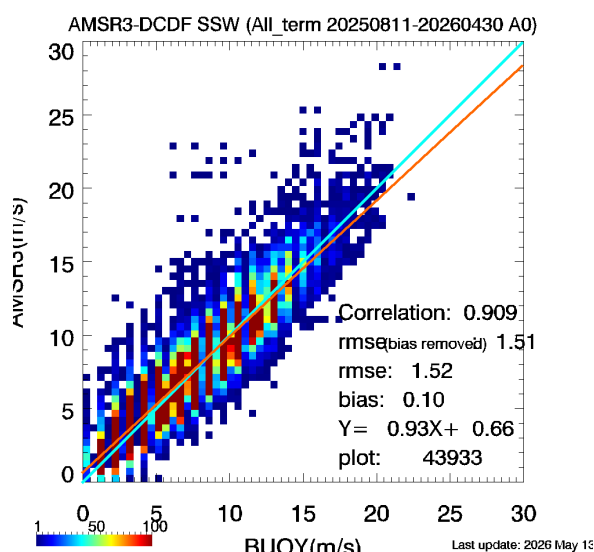
#### (5) 海上風速

- 検証結果

アセンディング

ディセンディング

アセンディング・ディセンディング



リリース基準精度

対バイの二乗平均平方根誤差(RMSE)  
1.5 m/s

検証結果

**RMSE = 1.5 m/s**

備考

標準精度(1.0m/s)を達成するためにアルゴリズムの精緻化検討を継続する。

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

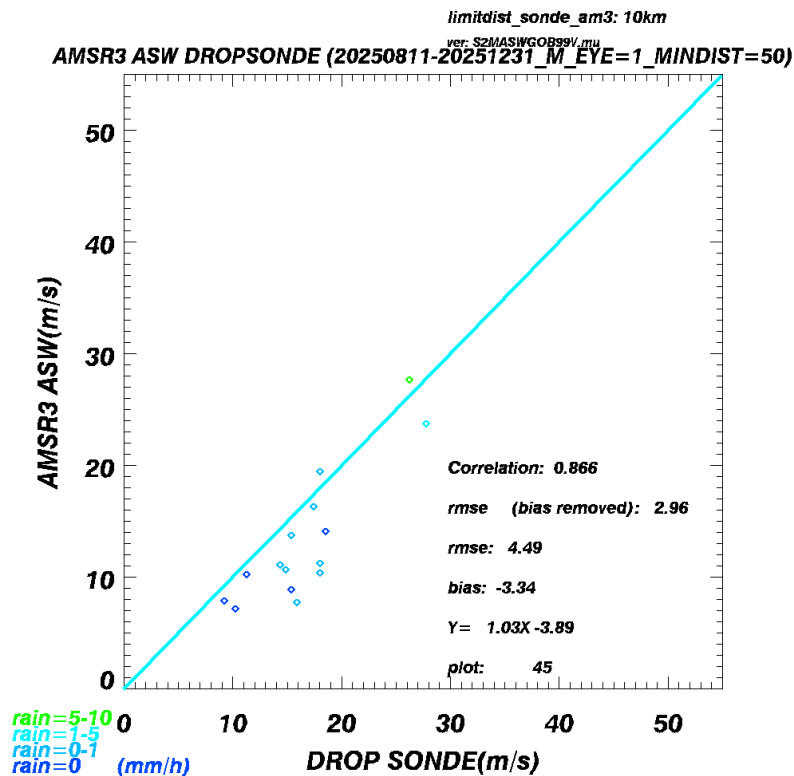
#### (6) 全天候海上風速

- 検証方法
  - 台風・ハリケーン域内のドロップゾンデで観測された海上風速をAMSR3による海上風速の推定値と比較し、二乗平均平方根誤差(RMSE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - 台風のベストトラックに対して時間差6時間以内、距離差500km以内の場合を抽出する。但し、台風の本目とその周辺の対流域のデータは使用しない。
  - ドロップゾンデデータに対して、観測時刻差1.5時間以内、かつ、距離差10km以内のAMSR3観測点を検索し、かつ、AMSR3降水量の平均値が30mm/h以下の場合に検証を実施する。
  - 上記条件を満足する場合に、ブイに対して最近傍点のAMSR3データを検証する。
- 検証期間
  - 2025年8月11日から2025年12月31日

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (6) 全天候海上風速

- 検証結果



※AMSR3観測期間中に利用可能なドロップゾンデ観測が限られる。このため、ミッション要求書では検証の対象レンジが「風速15m/s」と定義されているが全レンジを対象とした。

リリース基準精度	検証結果	備考
対バイの二乗平均平方根誤差(RMSE) 7 m/s	RMSE = 4.5 m/s	標準精度(5m/s)を達成するためにアルゴリズムの精緻化検討を継続する。

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (7) 海氷密接度

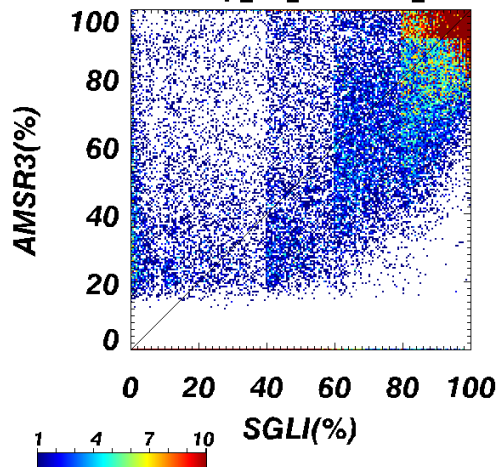
- 検証方法
  - 海氷密接度の検証は、光学センサ等との比較によって実施する。光学センサの反射率データから雲域でない海域について海氷域を特定、AMSR3の観測グリッド内の海氷割合から開票密接度を算出し、二乗平均平方根誤差(RMSE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - GCOM-C/SGLI LTOA、CLFGプロダクト
  - Ice-chartも参考に雲域でない海域について評価を実施する
  - 観測時刻30分以内の同期観測データを使用
- 検証期間
  - 2025年9月1日から2025年9月30日

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (7) 海氷密接度

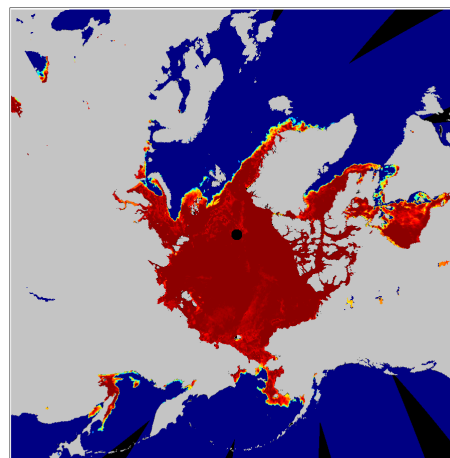
- 検証結果

SGLI-./outtemp\_sic\_20250901\_20250930



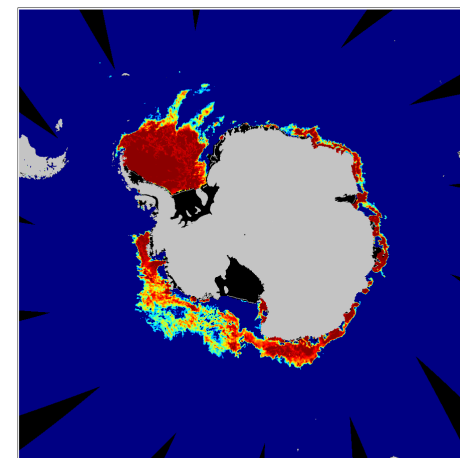
correlation : 0.954  
 rmse (bias removed) : 2.71  
 rmse: 2.72  
 bias : -0.58  
 $Y = 0.97X + 0.04$   
 plot number: 228271

北半球海氷分布



AXA EORC

南半球海氷分布



AXA EORC

リリース基準精度	検証結果	備考
10%	vs SGLI 2.72%	期間を延長し、継続的な検証を実施する

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

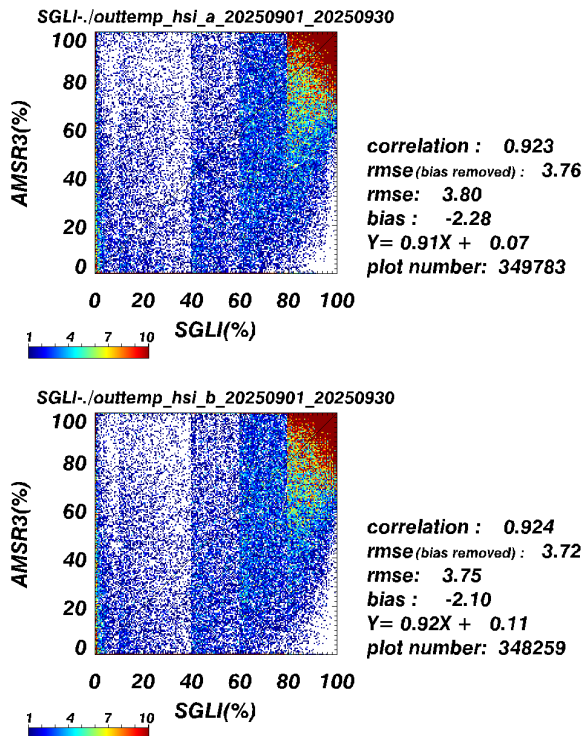
#### (8) 高解像度海氷密接度

- 検証方法
  - 高解像度海氷密接度の検証は、海氷密接度プロダクトと同様、光学センサ等との比較によって実施する。光学センサの反射率データから雲域でない海域について海氷域を特定、AMSR3の観測グリッド内の海氷割合から海氷密接度を算出し、二乗平均平方根誤差(RMSE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - GCOM-C/SGLI LTOA、CLFGプロダクト
  - Ice-chartも参考に雲域でない海域について評価を実施する
  - 観測時刻30分以内の同期観測データを使用
- 検証期間
  - 2025年9月1日から2025年9月30日

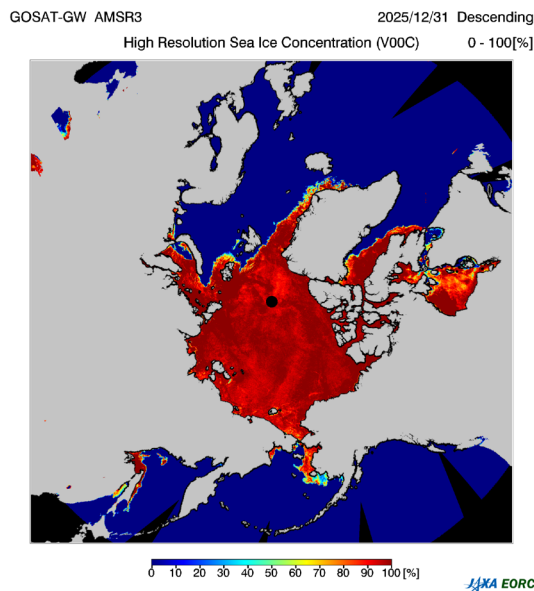
### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (8) 高解像度海氷密接度

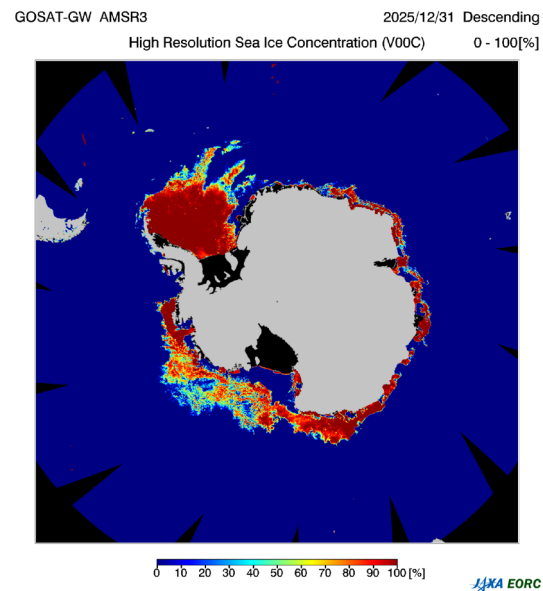
- 検証結果



北半球海氷分布



南半球海氷分布



リリース基準精度	検証結果	備考
15%	vs SGLI Aホーン:3.80%, Bホーン: 3.75%	期間を延長し、継続的な検証を 実施する

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (9) 土壌水分量

- 検証方法

- 地上観測データを用いて、当該プロダクトの対地上観測の絶対値平均誤差(MAE)を求め、その値を用いて検証する。

- 検証条件等は下表のとおり。

	モンゴル	オーストラリア	リトルリバー(SCAN)
データ比較期間	2025年8~10月	2025年8~11月	2025年8~12月
使用地点数	6地点(深さ3cmでの計測値)	2地点(深さ3cmでの計測値)	1地点(深さ5cmでの計測値)
空間条件 (AMSR3)	N45.9~N46.9, E106.5~E107.1の矩形領域内に入るAMSR3同一パス内データの平均値を用いる。	2地点(T1, Y10)のうちT1地点を地点中心とし、その7km以内でAMSR3同一パス内での最近隣点データを用いる。	対象地点から7km以内でAMSR2同一パス内での最近隣点データを用いる。
空間条件 (地上観測)	AMSR3観測±1時間以内のデータを採用し、同一時刻に4地点以上(欠損4割まで)で取得されているデータの平均値を用いる。	AMSR3観測±5分以内のデータを採用し、同一時刻に2地点で取得されているデータの平均値を用いる。	AMSR3観測±30分以内のデータを用いた。
植生条件	植生量 低 (対象期間中 NDVI 0.5未満)	植生量 中 (対象期間中 NDVI 0.5前後)	植生量 高 (対象期間中 NDVI 0.5以上)
その他, 考慮点	AMSR3のフットプリントサイズに応じた範囲の複数点を使用している。	隣接した2地点のみのため、AMSR3のフットプリントサイズに応じた土壌水分の不均一性が考慮されていない可能性がある。	1地点のみのため、AMSR3のフットプリントサイズに応じた土壌水分の不均一性が考慮されていない可能性がある。また、地上観測の計測深度が5cmであり、モンゴルとオーストラリアの深度3cmより深いため、より表層の土壌水分に影響を受けやすいAMSRプロダクトで捉えにくい可能性がある。

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (9) 土壌水分量

#### ・ 検証結果(3地点混合結果)

3地点混合結果	データ数	相関	RMSE [%]	Bias [%]	MAE [%]
アセンディング(A)	166	0.42	8.31	1.60	4.79
ディセンディング(D)	199	0.56	5.94	1.87	4.32
A/D混合	365	0.48	7.12	1.75	4.54

<アセンディング(A)>

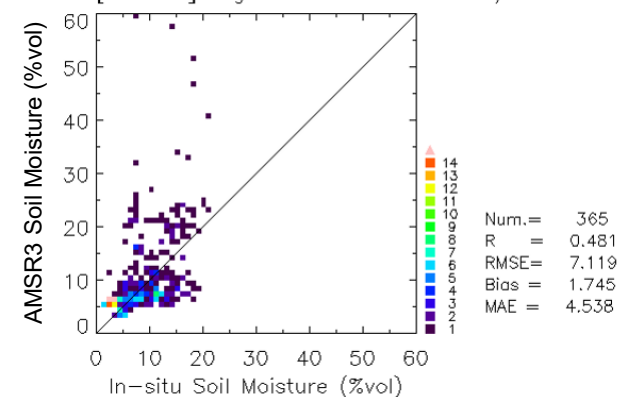
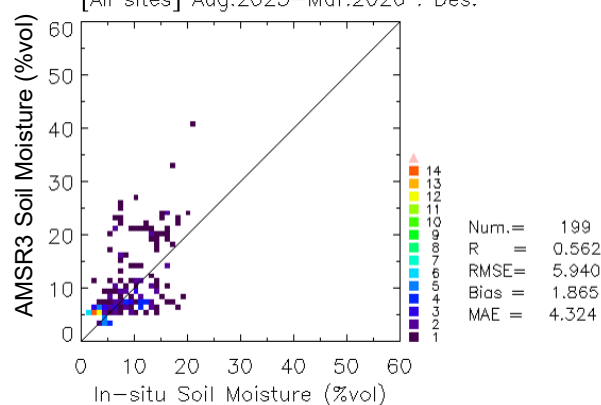
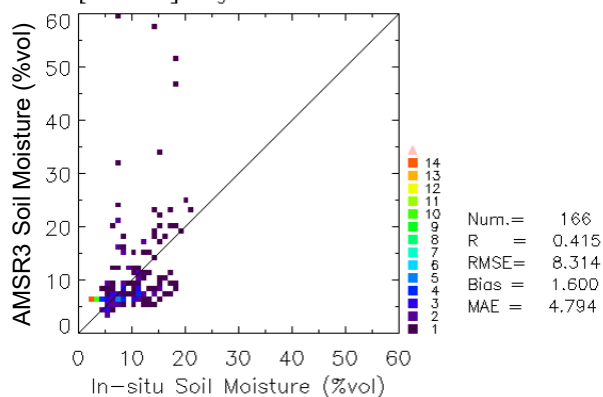
<ディセンディング(D)>

<A/D混合>

[All sites] Aug.2025-Mar.2026 : Asc.

[All sites] Aug.2025-Mar.2026 : Des.

[All sites] Aug.2025-Mar.2026 : Des./Asc.



リリース基準精度

検証結果

備考

対地上観測の絶対値平均誤差(MAE):  
10 %

MAE = 4.54 %

他地点での検証を継続する

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (10) 積雪深

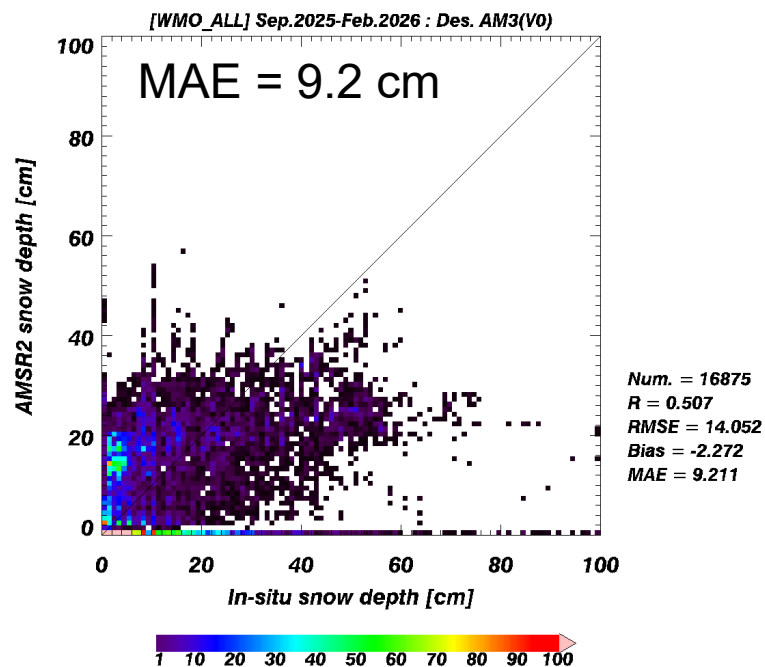
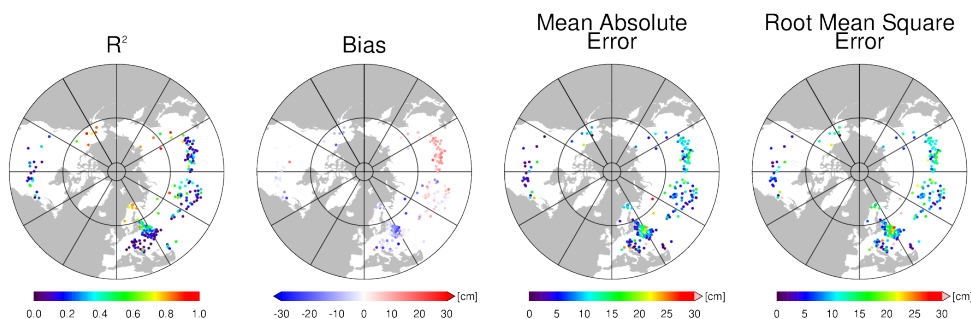
- 検証方法
  - 氷床と密な森林域を除く全球陸域の積雪深について、AMSR2による積雪深と、地上に展開された積雪深観測装置等との同時観測から、25km程度の水平分解能における瞬時値の差の絶対値平均誤差(MAE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - NOAA国立環境センター(NCDC)が提供するGlobal Historical Climatology Network daily (GHCNd)の積雪深データについては、40km以内に存在する水域が10%以下であること、測定欠損数等を考慮して選定。各点の観測と、観測時間差1時間以内、距離7km以内の最近隣のAMSR3データを収集して比較。
- 検証期間
  - 2025年9月1日から2026年2月28日

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (10) 積雪深

- 検証結果

[WMO\_ALL] Sep.2025-Feb.2026 : Descending AM3(V0)



リリース基準精度

20 cm

検証結果

vs GHCNd MAE = 9.2 cm

備考

リリース精度を満たしている

### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

#### (11) 海氷移動ベクトル

- 検証方法
  - International Arctic Buoy Programme (IABP)が提供する漂流ブイのGPS情報から推定された海氷速度とAMSR3による海氷移動ベクトルの推定値から、二乗平均平方根誤差(RMSE)を求める。
- 検証データ・比較条件
  - IABPブイに対してAMSR3の観測時刻差が6時間以内、かつ、距離さが25km以内の範囲で、最近傍のAMSR3観測データを検証する。
  - IABPが2m/sを超える場合は異常値として検証から除外。
- 検証期間
  - 2025年8月11日から2026年4月30日



### 3. 標準プロダクト検証結果(高次)

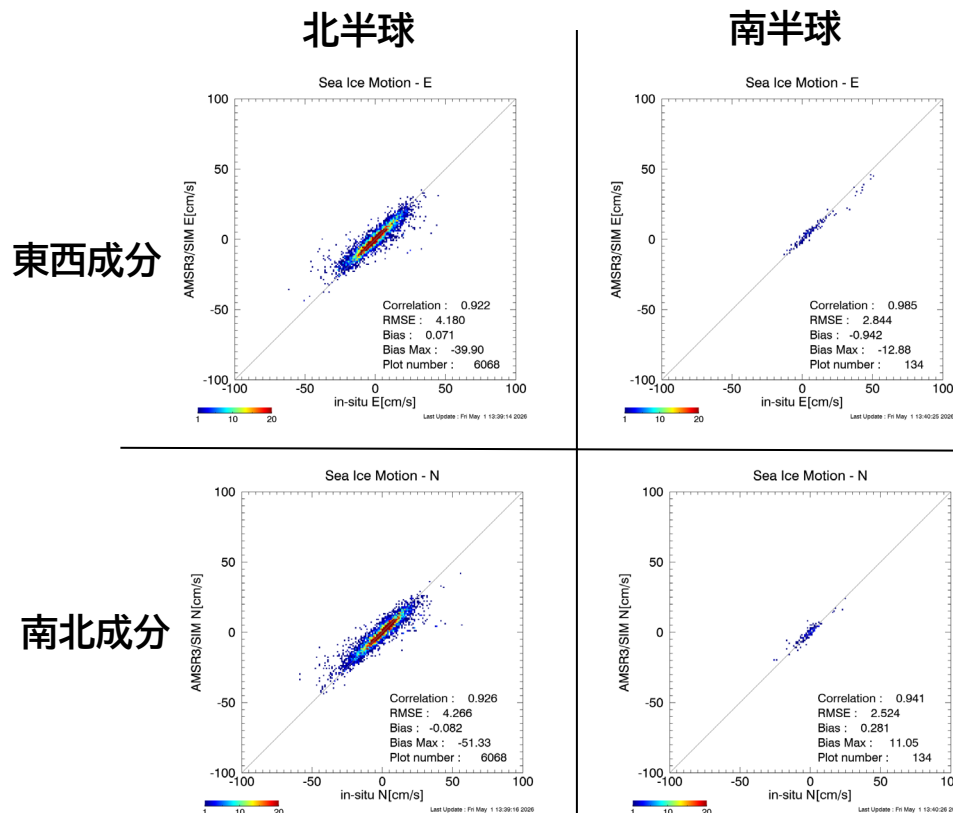
#### (11) 海氷移動ベクトル

- 検証結果

対象領域		北半球	南半球※
データ数		6068	134
相関	東西	0.92	0.99
	南北	0.93	0.94
RMSE [cm/s]	東西	4.2	2.8※
	南北	4.3	2.5※
Bias [cm/s]	東西	0.07	-0.06
	南北	-0.94	0.28

リリース精度: 6 cm/s (東西・南北成分)

※SIMの精度は夏期より冬期に高い傾向にある。  
南半球は有効な現場データが冬期に限定されるため、精度が高く算出されている。



リリース基準精度	検証結果	備考
対ブイの二乗平均平方根誤差 (RMSE) 6 cm/s	東西成分: RMSE = 4.2 cm/s 南北成分: RMSE = 4.3 cm/s	

リリース精度を満たしている

## 4. 標準プロダクト(高次)検証まとめ

プロダクト名		領域	リリース精度	評価結果
積算水蒸気量	海上	全球洋上	3.5 kg/m <sup>2</sup>	対ゾンデ:2.65 kg/m <sup>2</sup> 対GPS:1.65 kg/m <sup>2</sup>
	陸上	全球陸上	6.5 kg/m <sup>2</sup>	対ゾンデ:3.73 kg/m <sup>2</sup> 対GPS:2.72 kg/m <sup>2</sup>
積算雲水量		全球洋上	0.10 kg/m <sup>2</sup>	0.058 kg/m <sup>2</sup>
降水量	降雨量	全球	海上: 50 % 陸上: 120 %	海上:44.7% 陸上:72.5%
	降雪量		海上: 130 % 陸上: 200 %	海上:88.7% 陸上:109.1%
海面水温	6 GHz	全球洋上	0.8 °C	0.52 °C
	10 GHz 多周波			10 GHz:0.53 °C 多周波:0.51 °C
海上風速		全球洋上	1.5 m/s	1.47 m/s
全天候海上風速		全球洋上	7 m/s	4.61 m/s
海水密接度		極域洋上	10%	2.72%
高解像度海水密接度		極域洋上	15%	3.80%
積雪深		全球陸上	20 cm	9.2 cm
土壌水分量		全球陸上	10%	4.54%
海水移動バクトル		極域洋上	6 cm	東西:4.2 cm, 南北:4.3 cm

## 4. 標準プロダクト(高次)検証まとめ

- 全11種の標準プロダクト(高次地球物理量プロダクト)について検証作業を完了し、その結果、全ての標準プロダクトがリリース精度を満たしていることを確認した。
- プロダクトリリース後も検証評価を継続し、アルゴリズム開発へフィードバックすることで標準精度達成を目指すとともに、継続的な検証体制の維持およびキャンペーン観測を通じた検証データのさらなる収集を行う。
- 長期観測の観点から、AMSR2との整合性について継続的に評価し、プロダクトの安定性やセンサ間の整合性等の確認にも注力し、一貫したプロダクトの開発および検証評価を継続する。
- なお、L3統計プロダクトにおいて、GOSAT-GWの回帰日数に起因した品質低下が確認されている。
  - 前号機のGCOM-Wが回帰日数16日であるのに対し、GOSAT-GWは3日に変更され、パスの組み合わせが減少したことにより、月平均処理に用いるデータ数に経度方向の偏りが生じている
  - 海洋プロダクトにおいて、sun glintによる欠損域が生じる領域が固定化される傾向にあるため、月平均処理後のL3プロダクトにおいて欠損が生じる場合がある